

ベルマーク新聞 11月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表) 郵便振替口座 00100-7-56035
大阪事務所 大阪府北区中之島2-3-18 朝日新聞大阪本社内 〒530-8211 電話 06-6231-0131 ダイヤルイン 06-6201-8031 ホームページ <http://www.bellmark.or.jp/>

豊橋まつりでベルマーク PR



10月20日(土)と21日(日)、愛知県豊橋市で行われた「第64回えじゃないか豊橋まつり」で、市教育委員会が「目指せ『ベルマーク』1,000万ポイント!」を掲げたベルマークのブースを出しました。豊橋市は2016年から市をあげてベルマーク運動に力を入れ、3年目となる今回のブースには過去最高の約500人の子どもたちが訪れました。

「こども未来館ここここ」に21日に設営されたブースでは財団制作のDVD「未来を育むベルマーク」が大きなスクリーンで流れ、ベルマーク商品の展示や市内で運動を応援する企業の紹介、クイズコーナー、そしてもちろん収集箱もあり、まさにベルマーク一色でした。スタッフとして、ベルマーク大使の倉光陽子さんを始めとした市教育委員会の皆さん、同じく大使の松本哲さん率いるジブラルタ生命保険(ベルマーク番号15)の岡崎支社豊橋第二営業所の皆さん、社長が大使として活躍するあいおいニッセイ同和損害保険(同92)の三河支店豊橋支社の皆さんがボランティアとして参加しました。

マークを5点以上持参するかクイズに挑戦するかした子には、市の公式キャラクター「トヨッキー」のグッズや協賛会社からのプ

500人の子どもたちがブースを訪問

レゼントが贈られました。「ピアノが買えるなんて知らなかった」と子どもたち。「ベルマークの切り方って決まりはないんですね」と、これは大人の声。大使の松本さんは「未就学の子を連れた親が多いですね。イベントで運動のことを知り、今後につながったら嬉しい」。また倉光さんは「クイズで初めてベルマークを知る人もいますが、皆さんに理解を深めてもらうきっかけになれば」と話しました。

手にいっぱいマークを持ってきてくれた人、他のイベントのついでに寄った人、1年間マークを貯めてきてくれた人、「もっとベルマークを宣伝しなきゃいかん」とアドバイスをくれた人……。ブースを訪れた理由はそれぞれでしたが、改めてベルマーク運動の魅力に気づくきっかけになるイベントでした。

【プレゼントを提供してくれた協賛会社=〇はベルマーク番号】ラッキーベル(03)、クレハ(10)、ジブラルタ生命保険(15)、岩塚製菓(16)、ファミリーマート(23)、成田食品(36)、ブルボン(48)、ショウワノート(53)、クツワ(55)、グリーンスタンプ(56)、スミフルジャパン(70)、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合(76)、あいおいニッセイ同和損害保険(92)、マルニ(95)



東北 132 校、へき地等 166 校

ベルマーク、今年度の援助対象校

ベルマーク財団が今年度支援する対象校の大枠が固まりました。へき地学校・特別支援学校・院内学級・日本人学校の合計166校に加え、東日本大震災被災校132校、あわせて298校です。

震災被災校については、岩手・宮城・福島の3県の小中学校の校長会にお願いしてリストを出してもらい、総額1020万円をかけて備品やバス代の支援を実施しているところ。へき地校は100校に30万円相当の備品を援助し、

特別支援学校は58校に希望の備品または拡大読書器かプロジェクター、院内学級4学級にはタブレットを援助しました。また日本人学校・補習校4校に希望の備品を贈りました。

7月の西日本豪雨被災校については現在被害を調査中で、8月の北海道地震の被災校も含め、追加で援助を実施する予定です。

(本号6面に支援先の学校名を掲載しています)

食育・子どもの居場所作り支援

キューピーみらいたまご財団が助成対象を募集

協賛会社のキューピー(ベルマーク番号07)が設立した「一般社団法人 キューピーみらいたまご財団」が、2019年度の「食育活動」と、子ども食堂などの「食を通じた居場所作り支援」に対して、総額2,500万円の助成支援を行います。現在、助成対象の団体を募集中。締め切りは11月30日(金)です。

食育の「A」と、居場所作りの「B」の二つのプログラムに分かれ、いずれも助成金の使用は2019年4月1日から

2020年3月31日まで。プログラムBには今回から、2018年以降に活動を開始した団体を対象とした「スタートアップ助成金」も新設されています。

キューピーみらいたまご財団は、「食」に関わる社会課題の解決に貢献するため2017年4月に設立、助成はこれが3回目になります。選考結果の発表は2019年2月下旬の予定。応募方法や選考スケジュールなどの詳細は、同財団のホームページをご覧ください。

ボランティアデーにベルマーク活動を

ジブラルタ生命松江支社、「仕分け」「寄贈」

協賛会社のジブラルタ生命保険（ベルマーク番号15）は、毎年10月に社員とその家族がボランティアをする「インターナショナル・ボランティア・デー」（以下、ボランティアデー）を設け、社員と家族が街頭募金や清掃活動、お祭りなど多様なボランティアをしています。



島根県松江市にある同社の松江第二営業所は、昨年より近くの小学校でベルマークの集計作業を手伝っています。

きっかけは2015年6月のベルマーク運動説明会。同営業所ライフプラン・コンサルタントの山根博幸さんが、お子さんの通う小学校のPTAの役員として何気なく出席したのですが、「知らなかったことばかりで衝撃を受けました」。さらに校内で未整理のマークを大量に発見、放っておかず、休眠状態だった活動を再開させました。「実際に活動してみると、仕分けの負担をいかに減らせるかが継続のポイント。例年秋頃にマークを送ると結果の返送が早いと聞き、10月のボランティアデーの活動にぴったりだと思ったんです」と山根さん。

また、地域貢献活動の一環として、ジブラルタ生命松江支社に属する7営業所は、4年前から市内の学校へ寄贈するためベルマークを集めてきました。契約者や社員から寄せられたマークは今年1年間だけでも36,000点になります。

10月4日、朝から松江第二営業所の社員約10人が松江市立中央小学校（河井克典校長、児童350人）に集まりました。

同校はPTAがマークを会社別に分けませんが、点数集計には手が回りません。そこで昨年からお手伝いをしています。「捨ててしまうマークを少しでも減らしてお役に立ちたい」と所長の藤原均さん。

同時に、支社で集めたマーク5000点が松江第二営業所の深田英男さんから河井校長に手渡されました。「助っ人になって下さり心強いです。大切に使いまわす」と河井校長。同小では週一回全クラスで行う本の読み聞かせにもジブラルタ生命の社員が参加しています。

午後、一行は市立竹矢小学校（永井孝夫校長、児童311人）を訪ね、5000



点のマークを寄贈しました。山根さんが活動を復活させた学校です。あれから3年。PTA研修部に加えて児童の「思いやり委員会」も活動を担い、山根さんは2018年の説明会で発表役も務めました。点数は着実に伸びているそうです。津田昌彦教頭は「ベルマークが身近な存在になるように、児童にカタログで欲しいものを選んでもらっています」。

その後は市立第四中学校（小田川俊明校長、児童614人）へ。昨年より福祉



委員会の生徒が主体となってベルマーク活動をしています。委員会の生徒二人に、松江第一営業所の田部博也さんから10,000点が手渡されました。委員会担当の重谷淳子先生は「毎学期メンバーが変わり、仕分けや集計方法を理解してもらうのが難しく、企業の方に手伝っていただけたら助かります」と話しました。

松江支社でマーク集めの中心となっている深田さんは「地域貢献には様々な方法がありますが、ベルマークは学校と子供のメリットになります。この取組みを社内でも積極的に広げていきたい」。また山根さんは、「子どもたちのために大人が出来る事がベルマーク。備品購入が被災地やへき地の支援にも繋がるという仕組みが良いですね。活動がさらに広がって欲しい」と思いを込めました。



インターナショナル・ボランティア・デーにあわせたジブラルタ生命のベルマーク活動は他にも様々なものがあります。愛知県豊橋市の「豊橋まつり」で10月21日に設営されたベルマークブースへの協力もそのひとつ。また東京都千代田区の本社ビルでも10月4日、同社教弘推進チームのメンバーがマークの仕分け作業をしました。チームリーダーの朝長正康さん、教弘担当役員の前川明久さん、執行役員でベルマーク大使の松本哲さんなども参加、皆そろいのTシャツを着用し、卵の空きパックなどを使って仕分けを進めました。

13年連続マーク寄贈 「松愛会」山陰支部

パナソニックグループの定年退職者が参加するOB会「松愛会（しょうあいかい）」の山陰支部は2005年からベルマークを集め、これまでに計10万点余を地域の学校に寄贈してきました。

松愛会は全国35支部、29,050人（2018年10月現在）。創業者の松下幸之助の精神に基づき様々な社会貢献活動をしています。山陰支部の集めたマークは、今は松江市立湖南中学校に贈られています。そのためか、湖南中は昨年度、島根県内の中学校で集票点数第1位になり、生徒から大変喜ばれたそうです。

会員に支部だよりを郵送する際、切手を貼った返信用封筒を入れてマークを集めています。支部長の吉岡保夫さん（69）は、「7割はきちんと返ってきます。支部長会議で他の支部からマークをいただく事もあるんですよ」。仕分けと集計は役員4人を中心に年度末に一日かけて行います。虫眼鏡を使いながら一枚ずつ丁寧に数えるそうです。

地区委員で社会貢献活動責任者を務める赤星啓夫さん（67）は「体調や家庭の事情で活動に参加できない方も、ベルマークを送ることで参加意識が生まれ、一体感を高めるのに役立っています。誰かの笑顔のために社会貢献したいという想いが、もっと認められる世の中になってほしい」と話しました。



湖南中学校での贈呈式

牛乳石鹼が「手洗い」出前授業 大阪・榎本小学校で

ベルマーク協賛会社の牛乳石鹼共進社（本社・大阪市、ベルマーク番号37）による出前授業「手洗い教室」が大阪市鶴見区の榎本小学校でありました。同社がファンづくり活動の一環として3年前から実施している教室です。10月16日と23日、1年生あわせて約170人が手洗いの大切さと正しい方法を学びました。

先生役の牛乳石鹼社員が「なぜ手を洗わないといけないの？」と問うと、「ばい菌が付いているから」と子どもたち。「ばい菌が付いたままだとどうなるの？」「お腹が痛くなったり、病気になるよ」。特殊な光を当てると白く光るクリームを使って手洗いの効果を調べ、ランプで汚れが広がる実験をし、正しい洗い方をみんなで学びました。最後に「一人ひとりが石鹼できちんと手洗いをするのが大切」と教わり、子どもたちは「これからはしっかり洗う」とうなずいていました。



旭松、味の素、明治が出展 大阪で「食と科学のふしぎ博」

身近な「食」を通じて科学の面白さや大切さを体験するイベント「食と科学のふしぎ博」が9月22日、大阪市住之江区の大阪南港ATCであり、ベルマーク協賛会社の旭松食品（大阪市淀川区）と味の素（東京都中央区）、明治（同）もブースを出展しました。

旭松食品は「こうや豆腐のカガクを体験しよう！」と題し、かたい高野豆腐をやわらかく戻すにはどうすればいいかを、子どもたちと一緒に実験しました。味の素は、タンパク質を構成するアミノ酸が、味の成分としても重要な役割を果たしていることを知ってもらおうと、「味のふしぎ～アミノ酸ってなあに？」を開催。明治はヨーグルトの秘密を楽しく学べるブースを出し、いずれもたくさんの親子連れで賑わいました。

同博は教科書や教材を発行する新興出版社啓林館（大阪市）が主催、17の企業・学校などが協力しました。



国際福祉機器展にラッキーベル、 キューピー、内田洋行が出展

アジア最大級規模の福祉機器の展示会「第45回国際福祉機器展 H.C.R」が10月10～12日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれ、ベルマーク協賛会社のラッキーベル（ベルマーク番号03）とキューピー（同07）、協力会社の内田洋行が出展しました。

ラッキーベルは介護用シューズ「ラポーター」シリーズを紹介。歩きやすさを追求したスニーカー「ユニートン」はベルマークが56点です。キューピーは栄養サポート食品「ファインケア」と介護食「やさしい献立」両シリーズの試食を実施しました。内田洋行は福祉システムの「絆」シリーズを展示し、介護や福祉サービス業務を効率化する総合管理システムを紹介しました。

今回の福祉機器展には世界14カ国から620を超える企業・団体が出展、約20,000点の最新福祉機器が展示され、119,452人が来場しました。



「身体が軽い」「速くなったよ！」

八王子・小宮小学校でミズノ走り方教室

ベルマーク教育応援隊の「走り方教室」が10月14日、東京都八王子市立小宮小学校(佐藤浩校長・児童614人)で開かれ、1～6年生約120人が参加しました。あいにくの雨で広い校庭が使えず、大勢の保護者が見守るなか体育館での開催となりました。

講師はミズノスポーツサービス株式会社スポーツウエルネス営業部の小杉俊裕さん。中学から陸上競技を始め、関東大会出場や1600mリレー日本一の経験もある、全国で走り方教室を指導している人気の先生です。

まず屈伸やストレッチなど準備運動。「片足で30秒立ってみよう。フラフラしないで、手をしっかりあげてー！」という声掛けに、「30秒もできないよ～」と児童たち。

続いて両腕回しやスキップ、股関節を柔らかくするため足を開いたまま歩く練習、正しいスタートの方法など

を学びました。それが済むと少し複雑なステップを練習。「横に足を大きく広げて前に出し、ツーステップ」「途中でもも上げを50回してからダッシュ」――。最後に、習った動きを生かして、全員でリレーを楽しみました。

授業を受けた児童からは「すごく速くなった気がする」「走るときに身体が軽い」といった感想が聞かれ、見学していた保護者からも「動きがこれまでと全然違います」「何回教えても出来なかったフォームがすんなり出来ていました」と驚きの声があがりました。

小杉コーチは「走るのが好きな子が多くて、動きづくりがとてもスムーズでした。笑顔で楽しそうに出来て良かった」と話しました。

「走り方教室」は毎年人気を集めている教育応援隊のメニューで、協力会社のミズノが開催しています。



思い切り走るの楽しいね。体育館の舞台で見守るのは保護者のみなさん

目がキラキラ 理科実験教室

岐阜・恵那市立上矢作小でエジソンの会

岐阜県恵那市にある明智鉄道の岩村駅。NHKの朝ドラ「半分、青い」の舞台となった地です。そこから車で約15分。市立上矢作小学校(曾我隆校長、児童68人)で、理科実験教室が10月19日に開かれました。ベルマーク財団のへき地校支援のメニューのひとつです。

講師はNPO法人サイエンスものづくり塾エジソンの会(華井章裕代表)の5人。会場の体育館で教室が始まると、さっそくペンシルバルーンが飛んできました。さわろうと1、2年生が「ぼくが、わたしが」と立ち上がり、高学年から「すわって！」と声がかかります。

続いて飛んできた丸い風船は、いきなりパン！と大きな音を立てて割れました。風船にはゴムを溶かす性質を持つ柑橘油が塗ってあったのです。

他にも600本の三寸釘や、マジックで使われる綿火

薬などを題材に、盛りだくさんな実験が続き、子どもたちは目をキラキラさせて取り組んでいました。

授業の後半は工作です。グルーガンで4つのビー玉をくっつけた「ビー玉で逆さゴマ」は、回し始めると勝手に逆立ちします。さらに、好きな材料を組み合わせる「キラキラ万華鏡」、木片をくぎで打つのが難しい「ビー玉オルゴール」、自分の指の形の模型が出来る「コピックで指のレプリカ」などを作り、子どもたちは各自の作品で楽しそうに遊びます。同校教務主任の伊藤弘晃先生は「普段はできないことを経験させてもらい、子どもたちが生き生きしている」と嬉しそうでした。

最後に6年生の代表児童がお礼を伝え、教室が終わりました。大はしゃぎの2時間でした。子どもたちはお土産を持って、うれしそうに教室に帰って行きました。



飛び交うペンシルバルーン、いきなり大騒ぎになった理科実験教室。

「背筋伸ばして」「前を見て」…「乗れた！」

佐賀と和歌山で一輪車講習会

ベルマーク財団のへき地校支援プログラム「一輪車講習会」が10月、各地で行われました。いずれも、教えるのは一輪車競技で世界チャンピオンの経験もある鈴木奈菜さんと須郷真弥さんです。

●佐賀県唐津市立小川小学校

美味しいイカで名高い唐津市の呼子港から船で20分ほど、古くはクジラ漁で栄えた小川島にあり、台風で船が出るかどうかヤキモキしましたが、無事開催できました。1年生から5年生まで各1人ずつの児童5人全員が参加しました。



小川小は今年の春にベルマーク預金で一輪車3台を購入しましたが、乗り方や練習方法が分からず、余り使われていませんでした。須郷さんが座った子どもたちの間を縫って走ると、子供たちは

びっくり仰天「すげー！」。緊張が一気にほぐれました。

子どもたちはまず、ステージの縁で体を支えながら片足乗りの練習。すぐに全員が立てるようになりました。次はその姿勢をどれだけ長く保ってられるか。「背筋を伸ばして」「前を見て」。バランスを取るには姿勢が何より大事なことを体で覚えていきます。くじけずに何度も挑戦。サドルの上にいる時間がどんどん伸びていきました。

●和歌山県高川町立笠松小学校

10月22日と23日は和歌山県。9月の初めの予定が台風24号のため延期になっていたのです。

22日の笠松小は、ペア演技やグループ演技にも積極的に取り組み、2年生以上はみな補助なし乗車ができます。全校児童16人に加え、



近くの寒川第一小学校の11人、川原河小学校の2人も加わりました。

実習は1～3年生と4～6年生に分かれてスタート。下級生組は「良い姿勢」を心がけることに重点が置かれます。「腰を真っ直ぐ!」「顔を上げて前を見て!」。姿勢の違いで走り方がぐっとスムーズになるのが傍から見ていても分かります。

上級生組は、前進と後退を繰り返す「アイドリグ」に最初からチャレンジ。さすがは手慣れた子が多く、先生の指示を着実にこなしていきます。斜めに支えた一輪車をまたいで乗る「横乗り」、ペダルから離れた足で車輪を回して走る「タイヤ乗り」と技はどんどん高度になっていきますが、みんな一生懸命くらいついていきました。

●和歌山県田辺市立龍神小学校

10月23日は「美人の湯」で名高い龍神温泉にほど近い龍神小。体育館に1～6年生の15人が集まりました。ここも全校で一輪車に取り組み、3～6年生は運動会で成果を発表していますが、1、2年生はまだうまく乗れません。そこで乗れる子チームと乗れない子チームに分

かれて教わることになりました。

乗れる子チームは12人。うまく下りる方法から、8の字走行、アイドリグ、と続き、最後はグループ演技の大技「ループトンネル」成功を目指します。輪を作った中の2人がつないだ手を挙げたトンネルを残りの子どもたちが潜り抜けていくという難しい技。見事成功、とまでは行きませんでした。もう少しという所までこぎつけました。

乗れない子チームは3人。ステージの縁で体を支えながら、バランスを覚えていきます。講習会も終わりに差し掛かったころ、大きな歓声が沸き起こりました。先生に片手を支えられて前に進んでいた2年生の山本溪太くんが、手を離れてスルスルと5mほど走ったのです。「乗れた!」。びっくりしたような車上の顔が、すぐに誇らしげな表情に。見守っていた先生たちも「すごい、すごい」と本人以上に喜んでいました。



京都でへき地教育研究大会

分科会で京都市立花背小・宇治市立笠取小を訪問

第67回全国へき地教育研究大会（文部科学省、京都府教委、全国へき地教育研究連盟など主催）が10月11、12の両日、京都府で開かれました。全国のへき地校や小規模校、複式学級のある学校の教師ら約900人が参加。「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」をテーマに、初日は基調報告や記念講演などがあり、2日目は府内9校で公開授業がありました。来年の大会は長野県で開かれます。



地元のモノを教材に 京都市立花背小中学校（片山雅斗校長、児童生徒数34人）の公開授業には、約100人の教育関係者が訪れました。市の中心部から車で北へ約2時間。山に囲まれた地元の特徴的な自然やモノ、人物などを「花背教材」と名付け、各科目で活用するユニークな研究授業を見学しました。

同校の子どもたちは少人数のため、話し合いを深めたり、筋道立てて説明したりすることが苦手だったそうです。この研究授業は、そうしたことを克服しようと、昨年度から続けられています。

たとえば、6年生の国語では、4人の児童が花背の良さを伝えるパンフレット作りに取り組んでいます。この日は互いにパンフレットの下書きを読み合い、より良いものに仕上げるにはどうすればいいかを話し合いました。同じく6年生の算数では、日本一とされる「花背の三本杉」の高さを題材に、縮図を使って計算する方法をみんなで考えました。

体育館で開かれた締めくくりの分科会では、児童全員でつくる「花背小中学校わくわくバンド」が「となりのトトロ」などを演奏して歓迎し、大きな拍手を受けました。



19分の16 宇治市立笠取小学校の全校児童は19人。うち16人が学区外の市街地からスクールバスで高速道路を経由して通学しています。小学校があるのは、宇治市の北東部の山間の集落で、過疎化が進む地域。なぜ、宇治の市街地からわざわざ子どもたちが通ってくるのでしょうか。

笠取小は2001年度から京都府内で初めて「小規模特認校制度」を導入し、学区外の児童を受け入れ始めました。前年度、全校児童が6人にまで減少し、学校の存続が危ぶまれたからです。「地元の学校を守りたい」と地域の人たちが教育委員会に働きかけて実現しました。

「ふるさとが教科書になり、教材になる」がコンセプト。清流の川辺にはシロツメクサが密生し、森に入ればアケビが実をつけています。子どもたちは探検を通じて探求心を育み、深い気づきを得ていきます。地域の方々が全面協力していることも特徴で、田植え、草抜き、稲刈り、しめ縄作り、タケノコ掘り、干し柿づくり、餅つき、乗馬、伝統工芸の陶芸など、貴重な体験の機会を数多く提供してもらっています。祭り太鼓にも取り組み、毎年秋に地域の皆さんに練習の成果を披露しています。

こうした特色ある教育内容が評判となり、学区外からの入学希望者が急増しました。教室が狭いこともあり、抽選で人数を制限しなければならない年も出てきました。また、市立小学校なので、学区外といっても宇治市内居住が条件です。「お子さんを笠取小に通わせるために、京都市内や大阪府内から家族で宇治市内に転居したというご家庭もあります」と角田泰志校長は言います。そうした意識の高いご家庭にとって、いま、山間の学校が注目の的になっているのです。



(上) 全国へき地教育研究大会の開会式



(中) 地元の良さを伝えるパンフレット作りに取り組む花背小6年生の授業
(下) 笠取小3、4年制の「総合学習」。昆虫の擬態について、積極的な発言が相次ぐ



分厚い「引継帳」受け継いで／積み重なって大きく、を実感

静岡市立葵小学校／800万点

7月に800万点を達成したのは、ちょっとおもしろい立地にある学校です。静岡市立葵小学校（山田欣也校長、児童626人）の校門前から見えるのは、なんとお堀。駿府城公園を囲む二ノ丸堀と外堀のあいだにあるからです。

作業日に、環境教育委員の61人の皆さんが集まりました。各クラスに1人「正委員」がいて、児童からのベルマーク回収や事前仕分け、連絡役をします。袋の回収は年5回。作業日は年2回で、働いている方も参加しやすいよういずれも土曜日です。

財団がまだ教育設備助成会という名だった1985年に発行した「ベルマーク運動引継帳」を使っています。全てはその分厚い引継帳にあるので、「代々引き継いでいたら800万点を達成したようです」と委員長の鈴木多恵子さんは話しました。

集計は、事前に会社ごとに分けたマークを、ひたすら10枚ずつにまとめます。ホチキスで綴じるか、テープに貼りつけるかは自由。あちこちに動いている様子がないかを気にかける鈴木さん、実は環境教育委員になるのは上の子

の時と合わせて6年目になる大ベテランです。お買いもの額の1割が支援につながることを理解してくださっています。

皆さんからは「話しながらなので意外と楽しい」「こういう作業、嫌いじゃないです」「活動が土曜だから選びました」「転校生ですが、ベルマークなら学校が違ってやりやすいと思って選びました」という声が聞かれました。

最後は、鈴木さんと副委員長長の岩崎絵美さん、館林利依子さん、鈴木麻記さん、瀧昇子さんが残り、最終チェックと送り状の記入をしました。

最近は主にボール類や一輪車を購入し続け、預金を有効利用している葵小。商品は全校集会で先生が紹介します。

財団にはもう1冊もない「引継帳」を使い、土曜日に活動するという工夫。そんなふうに参加してくださっていることに感動した取材でした。



さいたま市立三橋小学校／800万点

さいたま市大宮区の中心部にあり、来年創立130周年を迎える市立三橋小学校は、児童数1140人のマンモス校。4月にベルマーク累計点数が800万点を超えました。1962年から運動に参加。この7年間で100万点積み上げました。



各クラス1人、計35人によるPTA総務委員会ベルマーク班と、5～6年生約30人で構成する助け合い委員会が運動を担います。月1度のベルマーク週間に子どもたちが封筒にマークを入れて持ち寄り、委員会の児童らが回収。それをPTAベルマーク班が2～3カ月に1度集まって仕分け・集計します。ボランティアの手伝いも毎回募集します。学区内の郵便局やスーパーなど6カ所にも回収箱を置いています。

800万点達成について、PTA副会長（ベルマーク担当）の増川裕美さんは、「集め

ようという意識が児童や各家庭に浸透していることが大きいのでは」と言います。とくに子どもたちは、マーク提出の際にシールを貼ってもらうのがうれしくて熱心に集めているようです。一方で、課題はむし分け・集計の効率化と負担の軽減。家庭である程度仕分けしてもらう試みを始めたほか、ボランティアを増やすことなども検討しています。

増川さんは「みんなが持ち寄るささやかな点数が積み重なって大きなものになっている。そんなことを実感します」。さらに「へき地や被災地の学校の役にも立っていることを、もっと伝えていきたい。それを知れば、活動の励みになるはず」と言います。

今年は3年間貯めたベルマーク預金で大判の紙に印字できるプリンターを購入します。浅野博一教頭は「視覚に訴え、子どもたちの集中力を高めることが期待できる。高価な機材なので、とても助かります」と話しています。



ボランティア半世紀 101歳、まだまだ元気

ベルマーク大使・幡野さんの近況



近藤周利さん(左)と幡野たいさん

ベルマーク大使の幡野(はたの)たいさんは、今年4月12日に101歳になられました。次女が小学生だったときにベルマーク活動への参加をPTAに働きかけ、それ以来、半世紀ものあいだマークを仕分けてきました。PTAでの活動が、児童のベルマーク委員会に引き継がれても、サポートを続けました。2016年に大使に選出されましたが、活動実績の長さは大使の中でも最長でしょう。山梨県上野原市にあるご自宅と、幡野さんの“マネージャー”がいる上野原市教育委員会を訪ねました。



器用な手先を使ってチラシを折る幡野さん

年齢を重ねるにつれミスが気になり、今は仕分けをお休みしている幡野さん。仕分けは生きがだったそうで「やめるとき、本当に寂しかったですよ。つらかった」と言います。82歳で胃がんになり、もうだめかと思った時、委員会の子どもたちからのメッセージを見て「私、まだ仕事があったんだ」と元気を出したそうです。

現在は自宅にいるほか、週3回デイサービス、時々ショートステイに通っています。聞き役のほうが好きだそうです。この日は今までの経験をたくさん話してくだ

さいました。長生きの秘訣は「物事をいい方へ解釈すること」「好き嫌いをしないこと」。好物はお肉です。

ベルマークについてだけでなく、戦時中にご主人を亡くした辛い記憶や苦勞、デイサービスでの楽しい時間など、101年歩んできた幡野さんの言葉には説得力があり、いつまでも聞いていたくなりました。

幡野さんの功績を伝えるのに、欠かせない人がいます。「私は何もしてないんです。ただのつなぐ係。それは、おばあちゃんのすごい功績を見てもらいたいから」。そう言うのは、上野原市立上野原小学校の元校長先生で、今は教育委員会に勤めている近藤周利(こんどうひろとし)さんです。近藤さんは、担任、教頭、校長にいたるまで通算4回、同小に勤務しました。ベルマーク委員会の顧問を務めたことがあり、学校に貢献する幡野さんを長年見てきました。その頑張りを知ってほしいという思いから、まるでマネージャーのように、取材を希望すると率先して幡野さんに連絡を取ってくださいました。「おばあちゃんの写真には、私もおこぼれで写っていることが多いんです」と笑います。

帰る際、幡野さんは2階の階段から顔をのぞかせてくださいました。丈夫な足腰を使って降りてこようとする幡野さんに、思わず「そこですいすよ」と声をかける近藤さん。優しい幡野さん、いつまでもお元気で。

ベルマークを通じて国際協力

オイスカ高校・澤根さんの頑張り

第1陣大使に任命された、学校法人中野学園オイスカ高校の奉仕活動委員長は、10月に澤根日向(さわねひなた)さん=写真左=から、松下友要(まつしたゆめ)さんへ引き継がれました。

友愛援助(ベルマーク預金を直接寄付にあてる支援)を通じて海外での地球緑化活動を支援しています。澤根さんは「国際協力というなかなか出来ない経験をしたことは誇りに思う」と振り返りました。

「とにかく真面目」、地味な仕事を「毎日地道にコツコツ出来る場所」が評価され、顧問の鬼石郁子(おにいしくこ)先生=同右=からの指名で委員長になりました。しかし、「人の上に立ってまとめる役は今までやったことがなかった」

ため、当初は苦勞もあったそうです。毎日の清掃時間、委員以外の生徒も含めて分担するマーク仕分けでは、リーダー役として先生の「代役」を務めました。

澤根さんは「焦らず仕事に慣れること。仕分けしたベルマークが何に使われているかを知って、堂々と委員長の活動を頑張る」とエールを送り、松下さんは「毎年50万点以上、友愛援助に寄付することを継続し、途上国が緑でいっぱいになるお手伝いをしたい」と応えました。



4代目大使「NO.1を」

神戸・魚崎小の小島さん

児童数1258人。神戸市内でも屈指のマンモス校で、7年前には全国でも最も児童が多い小学校とされた市立魚崎小学校(東灘区)は、ベルマーク運動に参加して今年でちょうど半世紀。集まるマークも年間15万~20万点と多く、4年前には累計で1千万点を突破しました。PTAベルマーク委員会の委員長は2016年からベルマーク大使も務めており、今年度は小島香奈恵さん=写真前列右端=が委員長兼4代目の大使として活躍しています。

小島さんは、もと

もと細かい作業が好きで「PTA役員をやるならベルマークを」と希望して就任しました。自身、小学校の頃からベルマークに親しんでいて「見つけたら切り取って保管するという習慣が身についている」そうです。「年間点数全国トップは難しいかもしれないけれど、何とか兵庫ナンバーワンを目指したい」



明治安田生命保険が南陽小にマーク寄贈

東京・東陽町の明治安田生命保険(相)事務サポート部が、社内で集めたベルマークを隣接する区立南陽小学校に寄贈しました。10年以上、毎年上期と下期に寄贈を続けているそうです。

9月21日に同社で贈呈式があり、事務サポート部の太田郁夫部長、担当者の吉原優子さん、竹井恵美さんから、南陽小PTA学級部部長の川瀨彩加さんに上期分1万8893.9点が渡されました。南陽小は都の年間集票点数ランキングの上位常連校ですが、同社からのマークも大きく貢献している形です。川瀨さんは「いつもありがとうございます。子どもたちのために使わせていただきます」とお礼の言葉を述べました。

同社は「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」を企業ビジョンに掲げ、各組織単位で小集団活動「Kizuna運動」を展開しています。ベルマーク寄付もその一環で、今年は協賛会社別の収集ポケットを作成するなど工夫してマークを集めました。「通勤路で子どもたちと出会うと、ウチからのベルマークで買った備品を使ってくれているかなど、よく思いをはせます」と太田部長は話していました。



「本の力を感じて…」 シャンティが活動報告

ベルマーク財団の友愛援助のひとつ、「ミャンマー(ビルマ)難民キャンプにおけるコミュニティ図書館を通じた教育支援事業」を実施している公益社団法人シャンティ国際ボランティア会が、2017年度の活動報告のため、10月10日、ベルマーク財団を訪れました。

民族紛争によってミャンマーから流出した難民は、国境を越えたタイ側の難民キャンプで30年以上も暮らしています。キャンプの様子を撮影した動画には、日本から届く絵本をととても楽しみにしている子どもの様子が映っていました。厳しい状況の中でも希望を感じさせるその姿に、現地スタッフのセイラーさんは「本の力を感じています」と言います。

同会が進める「絵本を届ける運動」は、アジアの子どもたちに現地語の翻訳シールを貼った絵本を届けるもので、2017年度は1704人・445団体が参加して絵本を作成、1万8429冊が難民キャンプをはじめ各地に届きました。届けた絵本の累計は29万3744冊になります。ベルマーク財団は2000年からシャンティを支援し、「教育応援隊」として「絵本を届ける運動」の参加校も募集しています。今年も全国で20校が運動に参加しました。



今年度の援助対象校リスト

東北支援132校、へき地等支援166校

東日本大震災被災校

福島県・小学校 (26校=すべて備品)
 双葉町立双葉北小・双葉南小・大熊町立大野小・熊町小・浪江町立浪江小・津島小・浪江町立なみえ創成小／富岡町立富岡第一小・富岡第二小(三春校)／富岡町立富岡第一小・富岡第二小(富岡校)／葛尾村立葛尾小・楢葉町立楢葉南小・楢葉北小／川内村立川内小／広野町立広野小／南相馬市立小高小・福浦小・金房小・鳩原小／いわき市立豊岡小／いわき市立永崎小／いわき市立久之浜第一小・久之浜第二小／田村市立滝根小／田村市立船引小

福島県・中学校 (11校)
 川俣町立山木屋中／飯館村立飯館中／浪江町立なみえ創成中／富岡町立富岡第一中／富岡町立富岡第二中／広野町立広野中／双葉町立双葉中=以上備品／浪江町立浪江中／大熊町立大熊中／葛尾村立葛尾中／いわき市立豊岡中=以上バス代

宮城県・小学校 (10校=すべて備品)
 気仙沼市 九条小／新城小／津谷小／南三陸町 志津川小／伊里前小／石巻市 蛇田小／釜小／大原小／東松島市 矢本東小／赤井南小

宮城県・中学校 (27校=すべてバス代)
 南三陸町 志津川中／気仙沼市 気仙沼中／条南中／鹿折中／大島中／新月中／松岩中／階上中／面瀬中／唐桑中／大谷中／津谷中／南三陸町 歌津中／石巻市 石巻中／住吉中／門脇中／湊中／蛇田中／渡波中／山下中／青葉中／万石浦中／雄勝小・中／北上中／牡鹿中／東松島市 矢本第二中／女川町 女川中

岩手県・小学校 (34校=すべて備品)
 大船渡市 盛小／大船渡小／末崎小／赤崎小／猪川小／立根小／大船渡北小／綾里小／越喜来小／陸前高田市 高田小／気仙小／広田小／小友小／米崎小／矢作小／竹駒小／横田小／釜石市 釜石小／唐丹小／鶴住居小／大槌町 大槌学園／宮古市 鎌ヶ崎小／津軽石小／赤前小／重茂小／崎山小／田老第一小／田老第三小／山田町 大沢小／山田北小／山田南小／織笠小／船越小／岩泉町 小本小

岩手県・中学校 (24校=すべてバス代)
 陸前高田市 第一中／高田東中／大船渡市 第一中／大船渡中／末崎中／赤崎中／綾里中／越喜来中／釜石市 釜石中／大平中／唐丹中／釜石東中／大槌町 大槌学園／吉里吉里学園中

学部／宮古市 第一中／第二中／河南中／津軽石中／重茂中／田老第一中／山田町 山田中／岩泉町 小本中／田野畑村 田野畑中／野田村 野田中

へき地学校・特別支援学校・院内学級

北海道【へき地】網走市 白鳥台小／留萌市 潮静小／石狩市 浜益中／長万部町 静狩小／上ノ国町 河北小／喜茂別町 喜茂別小／赤井川村 赤井川中／北竜町 北竜中／中富良野町 宇文小／美深町 仁宇布小／枝幸町 乙忠部小／礼文町 香深中／西興部村 上興部小／豊浦町 礼文華小／新ひだか町 高静小／本別町 本別中央小／浦幌町 上浦幌中／厚岸町 真龍中／浜中町 茶内小／中標津町 中標津東小【特別支援】札幌市 札幌視覚支援学校／函館市 函館盲学校／旭川市 旭川盲学校／帯広市 帯広盲学校／今金町 今金高等養護学校

青森県【へき地】三沢市 第三中／むつ市 川内中【特別支援】青森市 県立盲学校／八戸市 八戸第一養護学校

岩手県【へき地】奥州市 人首小、江刺南中／九戸村 戸田小

宮城県【へき地】登米市 米川小／加美町 宮崎中

秋田県【へき地】湯沢市 皆瀬中【特別支援】由利本荘市 ゆり支援学校

山形県【へき地】尾花沢市 福原小【特別支援】米沢市 米沢養護学校

福島県【へき地】いわき市 三和小／飯館村 飯館小

茨城県【へき地】大子町 さはら小

栃木県【へき地】茂木町 中川小【特別支援】宇都宮市 宇都宮大附属特別支援学校

群馬県【へき地】中之条町 六合小

千葉県【へき地】君津市 清和中【特別支援】匝瑳市 飯高特別支援学校

東京都【へき地】新島村 式根島中

新潟県【へき地】長岡市 山古志小／佐渡市 両津小／南魚沼市 赤石小

富山県【へき地】南砺市 利賀小【特別支援】高岡市 高岡高等支援学校【院内学級】富山市 ふるさと支援学校(国立病院機構富山病院)

石川県【へき地】輪島市 町野小【特別支援】輪島市 七尾特別支援学校輪島分校

福井県【へき地】南越前町 河野中【特別支援】

勝山市 奥越特別支援学校

山梨県【へき地】道志村 道志小【特別支援】甲府市 山梨大附属特別支援学校

長野県【へき地】長野市 鬼無里中／大町市 美麻小中

岐阜県【へき地】恵那市 飯地小【特別支援】下呂市 下呂特別支援学校

静岡県【へき地】川根本町 中川根中

愛知県【へき地】豊田市 萩野小

三重県【へき地】鳥羽市 神島小／熊野市 入鹿小

滋賀県【へき地】大津市 葛川小【特別支援】愛荘町 愛知高等養護学校

京都府【へき地】南丹市 美山小【特別支援】舞鶴市 府立聾学校舞鶴分校

大阪府【特別支援】大阪市生野区 生野聴覚支援学校／同中央区 中央聴覚支援学校／堺市堺区 だいせん聴覚高等支援学校／同北区 堺聴覚支援学校

兵庫県【へき地】香美町 小代小【特別支援】神戸市垂水区 神戸聴覚特別支援学校／姫路市 姫路聴覚特別支援学校／西宮市 こぼと聴覚特別支援学校

奈良県【へき地】天川村 天川中【特別支援】奈良市 奈良西養護学校／大和郡山市 県立ろう学校

和歌山県【へき地】田辺市 近野中／有田川町 八幡中【特別支援】和歌山市 和歌山大付属特別支援学校、和歌山ろう学校【院内学級】和歌山市 名草小(県立医大付属病院)

鳥取県【へき地】南部町 会見第二小【特別支援】鳥取市 鳥取聾学校／米子市 鳥取聾学校ひまわり分校／琴浦町 琴の浦高等特別支援学校

島根県【へき地】浜田市 今福小／奥出雲町 島上小／邑南町 石見中【特別支援】松江市 松江ろう学校／浜田市 浜田養護学校 浜田ろう学校

岡山県【へき地】美作市 大原中／美咲町 旭中【特別支援】岡山市 岡山瀬戸高等支援学校、岡山聾学校

広島県【へき地】三次市 川西小／安芸太田町 安芸太田中【特別支援】広島市中区 広島南特別支援学校／呉市 呉特別支援学校 呉南特別支援学校聴覚障害部門／尾道市 尾道特別支援学校聴覚障害部門

山口県【へき地】下関市 角島小／萩市 大島小【特別支援】山口市 山口南総合支援学校

徳島県【へき地】那賀町 平谷小、木頭中

香川県【へき地】土庄町 豊島小

愛媛県【へき地】久万高原町 美川小／伊方町 三崎中【院内学級】東温市 北吉井小学校(愛媛大付属病院)

高知県【へき地】土佐清水市 足摺岬小／馬路村 魚梁瀬中／いの町 吾北小【特別支援】高知市 県立盲学校

福岡県【へき地】福岡市西区 能古中【特別支援】北九州市八幡東区 北九州視覚特別支援学校／福岡市 東福岡特別支援学校／柳川市 柳河特別支援学校／筑紫野市 福岡視覚特別支援学校、福岡高等視覚特別支援学校

佐賀県【へき地】伊万里市 波多津小【特別支援】佐賀市 県立盲学校

長崎県【へき地】平戸市 山田小／松浦市 福島養源小／壱岐市 初山小／新上五島町 奈良尾中【特別支援】時津町 県立盲学校

熊本県【へき地】天草市 天草小／南小国町 中原小【特別支援】熊本市東区 県立盲学校

大分県【へき地】佐伯市 蒲江翔南小／玖珠町 日出生中【特別支援】大分市 県立盲学校

宮崎県【へき地】小林市 須木中【特別支援】宮崎市 明星視覚支援学校

鹿児島県【へき地】鹿屋市 大黒小／鹿屋市 輝北中／阿久根市 田代小／指宿市 利永小／薩摩川内市 黒木小／霧島市 三体小／南九州市 松ヶ浦小／長島町 伊唐小／瀬戸内町 篠川中／徳之島町 手々中【特別支援】鹿児島市 鹿児島盲学校【院内学級】鹿児島市 桜丘養護学校(鹿児島大学病院)

沖縄県【へき地】石垣市 真喜良小、崎枝中／名護市 久志中(緑風学園)／宮古島市 池間小／伊江村 伊江小【特別支援】南風原町 沖繩盲学校

海外の日本人学校・補習校

メルボルン日本人学校幼稚部(オーストラリア)／マディソン日本語補習校(アメリカ)／カトマンズ補習授業校(ネパール)／アムステルダム日本語補修授業校(オランダ)

ベルマーク寄贈者・友愛援助リスト(敬称略)

〈震災寄贈〉9月21日～10月20日
 ▼北海道 熊倉恵里▼岩手県 下野葉子▼宮城県 千葉さち代▼福島県 ㈱ウインズ 岩本修▼茨城県 神栖市社会福祉協議会波崎支所ベルの会▼千葉県 片岡雅恵 関田元子▼東京都 関谷春子と孫 匿名希望 パナソニックシステムソリューションズジャパン㈱ J-MOT 首都圏水ing ㈱ イオン銀行従業員組合 小倉ゆみこ 佐々木利夫 オートバイ崎山モーターズ 三林未散 日本基督教団小金井緑町教会 神元 藤よし子 原隆子▼神奈川県 佐野瑞香 ASA 二俣川 中村美貴子 箱根町立箱根中学校 伊東孝子 田中宏▼岐阜県 岐阜県 JA ビジネスサポート㈱管理部▼静岡県 鳥居広美▼愛知県 ㈱VIP クリエイト 中島美佳 長江政則 倉田芳恵 白田希久子 永井 河野 平井閑行▼三重県 ヤナセクリニック 田中京子▼大阪府 山本ゆり香 米田真椰 比佐由美子 福本壮▼兵庫県 藤井盛浩 藤原邦造 林田通世▼奈良県 宮崎新嗣▼鳥取県 上山陽香▼広島県 植村啓子▼香川県 内藤真由美▼福岡県 久家恵美▼鹿児島県 修行さとみ▼無記名=24件

〈一般寄贈〉9月21日～10月20日
 ▼北海道 NPO 法人幹の会生活介護事業所 ウッドベル望▼岩手県 門間果林 おおのかれん▼秋田県 鈴木薫望▼福島県 鈴木芳子 福島県北砕石販売協同組合▼茨城県 山田章子 匿名希望▼群馬県 学童たけのこ▼埼玉県 青木宏之 齊藤あさ子 田口陽子 藪陽一 大畑直美 武内亮介▼千葉県 野口梨紗子▼東京都 市川佳美 尾藤淳 幸仁クリニック デイケア 匿名希望 中元任 野崎照代、君江 三菱UFJ銀行恵比寿支店 ヤマト運輸労働組合西東

京支部 吉川庸子 朝日新聞東京本社販売管理部 市川佳世子 瓜谷静子 小森良彦 塩野公認会計士事務所 高沢健 山崎慶子 久保田正恵 ASA 富士見台 鶴山英己 吉川道夫 JYJ への愛をささやく ㈱大塚商会 山口君代▼神奈川県 和田俊子 医療法人育柿会おぐら皮フ科クリニック 新保順子 第一生命保険㈱神奈川営業局 吉川純 石黒琢一郎 東芝プラントシステム㈱経理部・IFRS・J-SOX 対応推進部▼新潟県 田辺美香 地域密着型複合施設わしま 飯川敏弘 小林英子 藤田ゆみ子 NPO 法人ひまわりクラブ▼富山県 渋谷彰一▼石川県 アイスター商事代理店・山本か乃子▼長野県 百瀬雅子 塚田康子▼岐阜県 匿名希望 堀信彦▼静岡県 みやかわ内科外科クリニック 佐野友美▼愛知県 宮木このみ 前田バルブ工業㈱望▼三重県 濱口愛 アイスター商事代理店・川口節子 メンテックオークボ 阪口敏子 川口美早紀▼京都府 奥村賢二 仲宗根毅 清水真由美▼大阪府 三井住友信託銀行難波支店 アイスター商事代理店・田中康子 大西祐子 藤原かおる▼兵庫県 高田雅美 永澤喜美 松尾靖子▼和歌山県 須佐見陽子▼島根県 松浦▼岡山県 守屋恵 大塚泰弘 ㈱ユーリン・ホーム 鳥越多美子▼広島県 全労済労働組合中四国支部 大和ハウス工業㈱広島支社▼山口県 成田奈苗 匿名希望▼徳島県 古西義敏▼香川県 長谷美代子▼福岡県 吉松篤子▼大分県 上坂美智代 石堂泰史▼沖縄県 外間房恵▼大山奈津美 長谷川舞 山戸和見▼無記名=21件

〈友愛援助申し込み〉10月1日～10月30日
 ▼北海道 陵北中(札幌市西区)▼岩手県 一

関清明支援学校(一関市)▼宮城県 白石市第一幼稚園(白石市)▼秋田県 聖霊女子短期大学付属中・高(秋田市)▼茨城県 二の宮小(つくば市)▼栃木県 国分寺西小(下野市)▼埼玉県 星宮小(行田市) 桜山小(東松山市)▼千葉県 上本郷小(松戸市)▼東京都 明正小(世田谷区) 東江幼稚園(葛飾区) 北椎谷小(大田区)▼神奈川県 大沼小(相模原市南区)▼新潟県 四郎丸小(長岡市)▼富山県 伏木中(高岡市) 石動高(小矢部市)▼石川県 石川県済生会保育園(金沢市)▼岐阜県 城南中(海津市) 北陵中(多治見市)▼愛知県 名古屋市立北中(名古屋市区) 豊浜中(南知多町)▼大阪府 八尾市立特別支援学校(八尾市) 松原公民館(松原市) 博愛社会学園幼稚園(大阪市淀川区) 城北小(岸和田市) 島本町立第二幼稚園(島本町)▼兵庫県 広峰小(姫路市) 渦が森小(神戸市東灘区)▼和歌山県 三輪崎小(新宮市)▼鳥取県 湖東中(鳥取市)▼岡山県 玉島東中(倉敷市) 宇野小(玉野市)▼広島県 七尾中(廿日市市) 安芸太田中(安芸太田町)▼山口県 豊北こども園(下関市) 興進小(山口市)▼愛媛県 川東中(新居浜市) 伊予三島福祉施設協会東保育園(四国中央市)▼大分県 城南小(大分市) 別府翔青高(別府市)▼宮崎県 西階中(延岡市)

みなさん、
どうもありがとう!!



大台達成校

南小	伊丹市	7,008,428
小林小	小林市	7,006,231
坂田小	米原市	6,037,350
船越小	横須賀市	5,048,805
鳩里小	加古川市	5,004,277
長者小	八戸市	4,007,511
数矢小	江東区	4,010,950
東富水小	小田原市	4,022,300
米丸小	金沢市	4,087,690
千早小	福岡市東区	4,027,457
戸塚東小	川口市	3,046,300
小平第八小	小平市	3,012,957
八幡小	池田町	3,028,812
清水白百合幼稚園	静岡市清水区	3,013,537
箕面市立西小	箕面市	3,020,892
羽衣小	高石市	3,006,247
岩園小	芦屋市	3,023,115
内原小	水戸市	2,000,171
辻小	川口市	2,013,516
北部認定こども園	浦安市	2,003,982
忠生第三小	町田市	2,008,134
上宮田小	三浦市	2,210,169
白山小	新潟市中央区	2,000,197
南小	長久手市	2,003,982
瓜破西小	大阪市平野区	2,013,124
奥坂小	高槻市	2,009,714
福米西小	米子市	2,019,463
緑丘小	五島市	2,002,689
川上小	鹿児島市	2,005,990
前原小	船橋市	1,008,372
学文中	西宮市	1,101,154
加茂名小	徳島市	1,008,173
松岡幼稚園	大分市	1,000,582